別　紙

第６回「市立病院のあり方検討会議」の開催結果について
（速報版）

１　開催概要

(1) 開催日時　　平成２８年６月３日（金）１５：００～１７：００

(2) 開催場所　　総合保健福祉センター（アシスト２１）２階・講堂

(3) 内　　容　　市立病院のあり方に関する意見交換

２　意見交換趣旨

○小松構成員（手をつなぐ育成会・理事長）

・前回の松田教授の「北九州の医療は充実している」という話には非常に感銘を受けた。自分の子育てを振り返り、医療費の支援などを思い出して改めて実感した。

・医療センターと八幡病院それぞれが何かに特化してやっていくことが非常に大事。その際、地域を見据えた取組みと役割を明確化していくことが重要。

・少子化が進み、女性も働く社会になる中、安心して出産や子育てができる環境を医療の中で整えていくことが非常に重要。できれば、八幡病院に０歳から高齢期までの障害者や家族を支援する仕組みができないか。

○花岡構成員（福岡県看護協会・会長）

・医療センターは、がん医療でいいという意見があるが、診療報酬制度は入院を短くして在宅で診る方向になっている。大規模病院は地域の開業医や訪問看護ステーションとの連携が重要であり、医療センターは地域連携の強化が課題。

・看護協会では、訪問看護ステーションの養成に取り組んでいるが、福岡県ではまだまだ足りない状況。地域医療構想の中で地域包括ケアが機能するためには、在宅医療が大きなポイント。

○豊島医療センター院長

・医療センターにおける地域連携は、現状では不十分だと考えている。

・連携という言葉は日頃から口にしているが、これまでは病院の機能を伸ばすという発想で考えていた。地域医療の仕組みという視点に立った時に、訪問看護ステーションや在宅との連携をどう考えるかはこれまで不足していた部分。そうした視点で地域での医療提供体制を考えることが大事という指摘には同感。

○権頭構成員（もやい聖友会・理事長）

・北九州市の地域包括ケアシステムに対する取組みは、他都市に比べて遅れていると感じる。例えば、大牟田市、糸島市、鳥取市では、地域の実情に応じた取組みが行われている。北九州市でも、医療だけでなく、様々な分野が一体となって進めていく必要がある。

○工藤保健福祉局長

・ご指摘のとおり、地域包括ケアはトータルなまちづくりだと考えている。

・北九州市の場合、医療・介護の資源が長く競争環境にあったため、なかなかネットワークが組みにくい状況にある。地域包括ケアの構築には、いかにネットワークを再構成するかが課題。

・今春、各地区医師会に医療介護の連携支援センターを開設した。今後は、市の地域包括支援センターを窓口として、医師会に後方支援していただきながら、医療介護を含めた生活支援のネットワーク化ができればと考えている。

○佐多構成員（産業医科大学病院・病院長）

・産医大病院では、遠賀・中間・鞍手地区の１５病院とネットワークを作っているが、訪問診療をする医師が少ないのが現状。診療報酬制度は今後も在宅を促す方向になると思うが、一病院だけの努力ではどうしようもない。訪問診療・看護の充実に向けて、医師会や市が誘導してほしい。

・アメリカの在院日数は３～４日と聞いており、日本でもさらに在院日数短縮の政策が進むだろう。市立病院の病床利用率は８０％を下回っているが、このまま急性期だけでいいのか、回復期病床が足りないという指摘がある中、市立病院だけでなく、北九州市全体の急性期病院がダウンサイジングも含めて考えないといけない。

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

・ノースイングランドには、大学と病院が連携して開発した医療器具が世界的シェアを獲得した事例がある。市立大学では、産業医科大学、九州歯科大学と連携し、機器開発や共同研究をしている。北九州市にはものづくりの伝統や多様な大学があるので、単に医療だけでなく、多角的な視点も必要ではないか。

○小松構成員（手をつなぐ育成会・理事長）

・北九州市には多くの急性期病院があるが、市民が納得できるよう、例えば障害者のケアなど、市立病院が絶対に担う必要があるものを明確化することが重要。誰もが障害者になり得るリスクがある。弱い立場にある人々を市全体で支援する中で、民間病院では担えないものを検討し、合意を得る必要がある。

・地域包括ケアシステムについても、市民一人ひとりにきめ細かなサービスを提供することが重要だが、全てを税金に依存するのではなく、福祉産業として収益を上げる循環型の仕組みを考える必要がある。

○工藤保健福祉局長

・障害児、障害者医療は、いわゆる政策医療の枠組みで考えていくべきだと思うし、市医師会でも問題意識を持って頂いている部分。八幡病院や医療センターのあり方とも関連するので、保健福祉局としても仕組みを考えていきたい。

○小松構成員（手をつなぐ育成会・理事長）

・冒頭に発言した「０歳から高齢期までの障害者」については、「家族支援」も大事。

・本市の看護専門学校の生徒は非常に質が高い。人材の確保は非常に大事であり、看護学校のあり方として、例えば障害者医療の専門性を身に付けさせるなど、市立病院を支えていくための教育も考えてほしい。

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

・看護専門学校や門司病院については、前回も質問があったが、現在の検討状況はどうなっているか。

○古川病院局長

・看護専門学校については、現在も検討中。本市の看護専門学校は、優秀な人材を育成し、市立病院にとって貴重な看護師の供給源になっているのは事実。

・門司病院についても検討中。現在は、指定管理制度の下、政策医療として結核医療を行っているが、結核については引き続き市が担っていく方向で検討している。

○佐多構成員（産業医科大学病院・病院長）

・結核医療は、門司でなければいけないのか。
例えば、医療センターでは感染症と周産期医療、八幡病院では小児科だが、将来的には、市立病院の機能を統合していくべきではないか。

○工藤保健福祉局長

・結核については、門司区にあった市立松寿園を統合する際に門司に移った経緯があるが、永久に門司になければならない訳ではない。

○花岡構成員（福岡県看護協会・会長）

・福岡県全体の看護師養成学校は年々増加しているが、実習不足の問題があり質の担保が難しい。そういう意味では、歴史のある看護専門学校を残して、質の高い看護師を輩出していただきたい。

・実際に病院を運営するのは現場のスタッフ。中でも看護職が大半を占めており、今後の独法化に向けて、ＰＤＣＡサイクルを回す準備をする時期に来ていると思う。

○原田構成員（乳がん患者会あすかの会・代表）

・がん患者にとっては、告知や術後の不安は非常に大きい。そうした際、患者や家族に寄り添ってくれる看護師などのスタッフが必要。医療センターにも、そうした専任の人材や相談できる場所を作ってほしい。

○市川八幡病院院長

・これからは、治す医療プラス寄り添う医療、家族支援が大事だが、そのためには色々な分野の人材を集める必要がある。独法化すれば随分変わると考えている。

・今はなかなか地域の中に入っていけないのが現状だが、今後は市立病院として地域医療のボトムアップ機能も担っていきたい。

・市立病院の機能については、周産期センターと小児科の合体は理想的だと考えている。また、小児救急については機能別に近隣病院とのネットワークができているので、更に強化していきたい。独法化後は、やりたい医療をもっとやれると思う。

○豊島医療センター院長

・この会議に参加し、我々病院側も、医療という枠に限定せず、コミュニティの中で位置付け直してもいいのではないかと感じている。

・がん医療については、医療をきっちりやる一方で、がん患者の人間としての側面を大事にする必要がある。医療センターにもがん患者の相談支援センターは既にあり、患者同士が話したり、医療側がサポートする仕組みを作ろうとしているが、内容が追いついていないのが現状。

○下河邊構成員（北九州市医師会・会長）

・市立病院のあり方検討会議も６回目となったが、やはり市民目線で前向きないいまちづくりに医療をどう生かすかが一番のポイントだと思う。

・五市合併から５０年以上経つのに、市立病院があちこちにあるのは無駄である。最終的には市立病院は一本化すべきという考えもある。

・現実的な対応としては、医療センターと八幡病院で重複している機能や、近隣の病院と重複している機能を整理する必要がある。その上で、医療センターのがん、八幡病院の小児救急といった個々の強い部分の向上を考えるべき。

・前回、産医大の松田教授から人口が減るという話があったが、障害者や子どもが安心して住めるまちづくりをやれば、人口減少は緩やかになると考えている。

・北九州市は全国的に見ても医療資源が豊富な地域。市立病院は民間病院との機能の重複をできるだけ排除し、政策医療という本来の医療を担う方向で機能を整理すべき。

・１１月には医師会と獣医師会による感染症の国際会議が北九州市で開催される。医師会としては、北九州市における感染症対策にも力を入れていきたい。

・医療センターや八幡病院の診療科など各論はこれから詰めていく必要があるが、独法化することによって、市民目線のいい病院が必ずできると確信している。
医師会としても全面協力し、一生懸命努力していくつもりである。

３　第６回会議のまとめ

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

今日は意見交換ということで、多くの意見が出た。事務局は、次回までにこれまでの意見を踏まえた改革プランのたたき台を準備してほしい。また、今後のスケジュールについても整理をお願いしたい。

４　第７回会議について（予定）

(1) 開催日時　　平成２８年７月４日（月）１５：００～１７：００

(2) 開催場所　　総合保健福祉センター（アシスト２１）２階・講堂

(3) 議　　題　　・市立病院のあり方について

・新改革プラン（たたき台）　等